

# オレとオートバイの物語

山際徳行さん  
木場三十五歳

の二〇六一です」とP.R.

再生だけではない。六年前には

から溶接まで。約一年かかった。

サイドカーを自作した。岡面引き

難しかった。コツコツやつたよ」

山際さんは皮ジャンよりツナギの

方が好きなんだ。

サイドカーの処女走行は

水から流れ出るのだという。「自然とはそう

いうものなのです。人間が手を加えればその

影響が必ずどこかに出ます。」<sup>▼日本野鳥の会</sup>

長からその理由が大河津分水だと教えてもら

つた。かつて信濃川が運んだ土砂の大半は

秋が新潟海岸を舞台に作った唱歌は「砂山」

という題名だった。いま、新潟海岸には砂山

どころか砂浜もない。大河津資料館の金子館

内に、大河津分水の歴史が記されています。

「海は荒海、向こうは佐渡よ……」と北原白

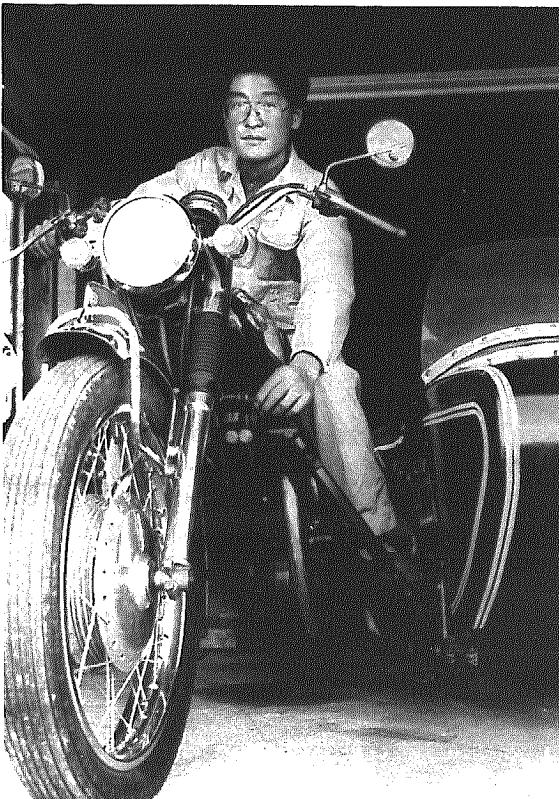
きも悪いときも一緒に走ってきた。

「ほかにもなんだかんだとたくさん

いいじつて今年中に再生される」

や「陸王」とかを捜している。知

つている人はぜひ電話を。三七九



自作のサイドカーを付けた愛車、カワサキW1（ダブリューワン）。2気筒4サイクル624ccのエンジンは「何より音がいい」と山際さん。調整に余念がない。走行距離は61,438キロ。18歳のときに乗っている。「コイツと10万も20万もずっと一緒にいたい」と山際さんはシートにまたがる。「がんばれよ。ロード」。少しためらい、キックした。一発二発。聞き慣れた排気音が響き、アクセルを回した。回転計の針が上がり、メーターがラスに映る雲が流れ始めた。コイツはいつもより少しだけかかる。たるそうに走り出した。ああ、やっぱりオートバイは小説の世界だね。山際さん。（文・五十嵐広報担当）

## 先月号の表紙

●今月号の表紙  
トの結果を発表します。若い人の意見  
いや、やつと明るい笑顔の町の人々が載せ  
られてよかったです。（新潟日報記者・M氏）  
月、役場はもちろん、婦人会、J.C.に聴いて  
も「知りません」。あきらめかけたとき、なん  
と広報の写真屋さん、小林六郎さんが、その  
人だった。まったく、灯台下暗しである。

## ボランティア活動してい る人を紹介。成人式アンケ

コイツとはもう十七年も付き合つてきた。コイツの機嫌がいいときも悪いときも一緒に走ってきた。コイツ、カワサキダブリューワン、オレの友達だ、というオートバイ付き春青小説風に書き始めたが、やはりムリがあるな。今号で紹介する山際徳行さんはカッコだけのバイク人間ではないのだ。

「夜、ワンカップを片手に、これをいじつてゐるときがいちばんいい」と週に三回はガレージに閉じ込もり、

「つやが落ちないよう注意してボディを磨き、「今日も元気か」と毎日キックしている山際さんなのだ。

十八のとき車検付きで十五万円で買ったのがいまの愛車。「ほしくてほしくてほしくてね」。大事に大事に二十年近く乗り続けていた。修理や維持も大変だが、自分でほとんどやっている。「乗ることと直すこと、どちらも好きだ」。ガレージの奥にはカワサキダブリューワンがもう一台ある。昨年全く動かないそれを十万円で買ってきました。ボディのさびを落として、

## ほんの一冊

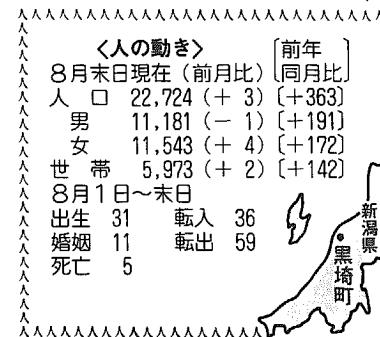
魔術師のおい  
(岩波少年文庫)  
C.S.ルイス  
(瀬田貞二訳)

イギリスファンタジーの傑作の一つ、

ナルニア国物語全七巻の第六巻です。ナルニア国物語とは、その名のとおり、ナルニア国が生まれてから終わるまでの長大な物語です。人間の子供を主人公に現実とは異なる別の世界を描いていくさまは見事です。

「魔術師のおい」は、ディゴリー（男の子）とポワー（女の子）がナルニア国の誕生に立ち会い、数々の冒險を経てたくましくなって、現実に戻ってきます。この中には、人間の弱さ、みにくさが描かれており、ファンタジーという言葉から連想する夢みがちなイメージとは異なる骨太な作品で、文句なく楽しめます。秋の夜長、別世界へご一緒にどうぞ。

（紹介者：中山佳奈恵）



## 主的に何か活動してい る人を紹介。成人式アンケ

つて、ほとんどやっている。「乗ることと直すこと、どちらも好きだ」。ガレージの奥にはカワサキダブリューワンがもう一台ある。昨年全く動かないそれを十万円で買ってきました。ボディのさびを落として、